

創立50周年記念シンポジウム／記念式典・祝賀会 開催報告

当会は1972年10月に、前身となる産業用ロボット懇談会（1971年3月設立）を「日本産業用ロボット工業会」に改組、発足し、2022年10月に満50年を迎えました。

これを記念して、当会では50周年記念事業実行委員会の企画の下、2022年度に創立50周年記念事業を展開しておりますが、その一環として10月13日（木）、14日（金）の両日にわたり東京ビッグサイトにて記念シンポジウムを実施するとともに、13日（木）に記念式典を挙行了しました。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、記念シンポジウムを東京ビッグサイト7階の国際会議場で、また、記念式典については同1階のレセプションホールの広い会場で開催することとなりました。

「JARA創立50周年記念シンポジウム」は、今後の半世紀を見据え、本記念事業のテーマである《ロボティクスがもたらす持続可能な社会》の実現に向けて、ロボットのあるべき姿を多面的に捉え、ロボット分野等の斯界の有識者による講演等を通じて広く発信することで、ロボット産業の発展に資することを目的として開催しました。

初日の基調講演では、一般社団法人Space Port Japanの山崎直子代表理事（元JAXA宇宙飛行士）より、「持続可能な社会の有り様とロボティクスへの期待」について、2日目の特別講演では、浅間一 東京大学大学院工学系研究科教授／当会ロボット産業ビジョン策定委員会委員長より「ロボット産業ビジョン2050～人・社会・環境と共存するロボット」に関する大変有意義で貴重なご講演をいただきました。

なお、今回概要をご紹介した上記「ロボット産業ビジョン」は、本記念事業の一環として当会ロボット産業ビジョン策定委員会の下、現在策定中であり、2022年度末までに取りまとめ、公表する予定です。

このほか、本シンポジウムでは2日間にわたり〈AIとロボット〉、〈スマートプロダクション〉、〈スマートコミュニティ〉、〈人とロボットの共生～倫理、安全、法～〉、〈人とロボットの共生～ロボットデザイン〉の五つのセッションにおいて、各方面のエキスパートである講師各位にご登壇いただきました。そして2日目の講演プログラム最後となるパネルディスカッションにおいては、《ロボティクスがもたらす持続可能な社会》をテーマに4名のパネラーによる活発な議論が展開されました。

なお、今回のシンポジウムはリアル会場（東京ビッグサイト 国際会議場）・オンライン会場のハイブリッド方式で実施し、会期中の来場者及びオンライン視聴者総数は1,424名と、多くの方に聴講いただき、一部講演についてはアーカイブ公開（期間限定）も行いました。



図1 記念シンポジウム会場風景

記念シンポジウム 講演プログラム

～10月13日(木)～



「持続可能な社会の有り様とロボティクスへの期待」
一般社団法人 Space Port Japan 代表理事 (元 JAXA 宇宙飛行士)
山崎 直子氏

10:05 <<セッション A>> AI とロボット



「人を幸せにする持続可能な AI・ロボット社会の創造に向けて」～国連「AI のある未来」
と Project GenZAI (ムーンショット R&D 事業) から～
早稲田大学文学学術院／次世代ロボット研究機構 AI ロボット研究所教授
高橋 利枝氏



「労働生産人口減少に対する、人を中心とした AI・ロボットの活用」
国立研究開発法人産業技術総合研究所 インダストリアル CPS 研究センター
研究センター長
谷川 民生氏



「AI・ディープラーニングの進展とロボット」
東京大学大学院工学系研究科教授
松尾 豊氏

13:00 <<セッション B>> スマートプロダクション



「ジャトコ電動ユニット生産ラインの紹介」
ジャトコ株式会社取締役会長
本田 聖二氏



「持続可能な食糧生産のためのロボット活用」
株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役
加藤 百合子氏

14:30 <<セッション C>> スマートコミュニティ



「自動配送ロボットが可能にする、より便利で持続可能な社会」
楽天グループ株式会社 ドローン UGV 事業部 UGV 事業課 シニアマネージャー
牛嶋 裕之氏



「手術支援ロボットへの挑戦」
株式会社メディカロイド取締役会長／川崎重工業株式会社代表取締役社長執行役員
橋本 康彦氏

～10月14日(金)～

9：10 特別講演



「ロボット産業ビジョン2050～人・社会・環境と共存するロボット～」
 東京大学大学院工学系研究科教授／一般社団法人日本ロボット工業会
 ロボット産業ビジョン策定委員会委員長
 浅間 一氏

10：05 ≪セッションD≫ 人とロボットの共生～倫理、安全、法～



「道徳的なロボットを作るには？」
 名古屋大学大学院情報学研究科准教授
 久木田 水生氏



「人とロボットの共生のための「安全」と「安心」」
 国立研究開発法人産業技術総合研究所インダストリアル CPS 研究センター
 ディペンダブルシステム研究チーム長
 中坊 嘉宏氏



「人工痛覚による共感，モラル，倫理，信頼の発生から法的位置づけまで」
 大阪国際工科専門職大学副学長
 浅田 稔氏

13：00 ≪セッションE≫ 人とロボットの共生～ロボットデザイン～



「ロボット時代の創造」
 株式会社ロボ・ガレージ代表取締役
 高橋 智隆氏



「アバターと未来社会」
 大阪大学大学院基礎工学研究科教授
 石黒 浩氏



「生き物っぽさのデザインと生物模倣設計とのギャップあるいはその接合について」
 東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授
 山中 俊治氏

15：30～16：30 パネルディスカッション

≪コーディネータ≫日本ロボット学会会長／株式会社IHI
 技術開発本部 技監 村上 弘記氏(上段左)



≪パネリスト≫

中央大学理工学部精密機械工学科教授 新妻 実保子氏(上段中央)

東北大学大学院工学研究科ロボティクス専攻教授 平田 泰久氏(上段右)

デロイトトーマツコンサルティング 合同会社産業機械・製造業セクター

シニアコンサルタント 上村 沢雄氏(下段右)

広島大学大学院先進理工系科学研究科教授 栗田 雄一氏(下段左)



創立50周年記念式典及び祝賀会は、政府関係者をはじめ、学識経験者、関連団体、そして会員企業や縁の方々など約200人のご臨席の下、東京ビッグサイト「レセプションホール」において開催しました。

記念式典では、当会山口賢治会長より我が国ロボット産業の拡大発展の現状について「ひとえに、ユーザ各位の温かいご支援並びに関係ご当局及び関係学会の方々のご指導、そしてSIer企業各位のご協力とともに、当会設立以来ロボット産業に携わってこられた多くの諸先輩、そして会員各位のご尽力の賜物」と感謝を述べた後、「当会では従来からロボット技術を課題解決型技術を位置付けているが、ものづくり現場のみならず、社会の様々な分野のニーズへの対応へと、活躍の場は一層広がるものと思われる。新たなニーズに応え、技術革新に基づく製品やシステムをいち早く世の中に送り出していくことで、ロボット産業の発展となるとともに、国内外が直面する諸問題や、さらにはSDGsなどへの貢献にもつながる」といった今後への期待と、「多様化する社会ニーズへの対応や我が国及び地球規模の様々な社会的課題への対応、そして業界が抱える多くの課題解決に対しても、会員一丸となって努力をしてまいり所存である」との抱負が述べられました。

また、来賓代表として経済産業省 山下隆一製造産業局長よりご祝辞をいただいた後、引き続き表彰式が開催されました。

表彰式では、当会及びロボット業界の発展に貢献された方々に対し、山下製造産業局長より「経済産業大臣表彰状」、「経済産業省製造産業局長表彰状」がそれぞれ贈られ、受章者を代表してファナック株式会社 稲葉善治代表取締役会長より謝辞が述べられました。

続いて、山口会長より、「会長特別表彰」、並びに副会長及び工業会活動功労者に対して「会長感謝状」がそれぞれ贈られました（表1）。



図2 山口会長式辞



図3 山下製造産業局長祝辞



図4 経済産業大臣表彰



図5 経済産業省製造産業局長表彰



図6 会長表彰



図10 祝賀会会場風景



図7 会長特別表彰



図8 安田課長による来賓挨拶



図9 橋本副会長による乾杯音頭

表1 表彰状, 感謝状贈呈者

1. 経済産業大臣表彰状

稲葉 善治 ファナック株式会社

2. 経済産業省製造産業局長表彰状

小笠原 浩 株式会社安川電機
 曾我 信之 株式会社F U J I
 津田 純嗣 株式会社安川電機
 橋本 康彦 川崎重工業株式会社
 藤田 俊弘 I D E C株式会社
 山田 陽滋 豊田工業高等専門学校

3. 会長感謝状

(1) 会長特別表彰

榊原 伸介 ファナック株式会社

(2) 歴代副会長

青田 広幸 元パナソニックファクトリーソ
 リューションズ株式会社
 秋山 昭博 パナソニック コネクト株式会社
 赤川 正寿 NACHI ROBOTIC SYSTEMS. INC.
 河崎 勝浩 元株式会社日立ハイテクインスツル
 メンツ
 国崎 晃 株式会社不二越
 久保田和雄 三明機工株式会社
 佐々木 誠 元株式会社不二越
 塩谷 國明 株式会社スター精機
 藤田 宏昭 元ヤマハ発動機株式会社

(3) 工業会活動功労者

上田 裕司 末廣 尚士 建山 和由 谷 和男
 鎮西 清行 水川 真 鎮西 清行 村上 弘記
 守田 裕親 山田 丈富

(敬称略, 氏名五十音順)

式典終了後の祝賀会では、山口会長の挨拶、経済産業省製造産業局 安田篤産業機械課長兼ロボット政策室長の来賓挨拶、50周年記念事業実行委員長の橋本康彦副会長より乾杯の発声の後、終始和やかな歓談の中で盛会裏に終了しました。